

年齢別ガイドブック

筑後市立図書館

おすすめの絵本・児童書



©筑後市

0歳のあかちゃんに おすすめの絵本



●くだもの

平山和子/さく 福音館書店

すいか、もも、ぶどう、りんごなど、子どもたちが食べる果物がまるで実物かと思うほど鮮やかに描かれ、「さあ、どうぞ」とさしだされます。(1981年)



●がたんごとんがたんごとん

安西水丸/さく 福音館書店

がたんごとんと、海辺を走る汽車。走っていくと、アイスクリームとスプーンが「乗せてください」と声をかけました。目的地はどこでしょう？(1987年)



●いないいないばあ

松谷みよ子/文 瀬川康男/画 童心社

ねこやくまやねずみが登場して「いない いらない・・・」と言ってページをめくるって「ばあ」と繰り返す絵本です。優しい色調で赤ちゃんでも理解できます。(1967年)

0 歳



●いいおかお

松谷みよ子/文 瀬川康男/画 童心社

ふうちゃんが、いいおかお。ねこも、いぬも、まねっこして、いいおかお。ぞうさんまでやってきて…？

(1967 年)



●もうねんね

松谷みよ子/ぶん 瀬川康男/え 童心社

いぬもねんね、ねこもねんね、めんどりも、ひよこも、モモちゃんもねむたいよう。

(1968 年)



●だるまんが

かがくいひろし/作 ブロンズ新社

どてっ。ぷしゅーっ。だ・る・ま・さ・ん・が…頁をめくって、あらら、びっくり、大わらい。とびきりゆかいなだるまさんの絵本。

(2008 年)



●赤ちゃんのためのことばの絵本

桑原伸之/さく あすなろ書房

「ころころ」「ゆらゆら」など、擬音のおもしろさを伝える絵本。あざやかな絵と、音の響き、リズム、くり返しのおもしろさが楽しめます。

(2002 年)

0 歳



●はみがきあそび

きむらゆういち/さく 偕成社

小さい時の習慣は一生つづきます。食事のあとはすぐはみがき。あそびながら、生活のリズムを覚える絵本。

(1998 年)



●いないいないばああそび

きむらゆういち/さく 偕成社

おかあさんと子どものあいだでくりかえされてきた「いないいないばあ」を、ゆかいな遊びの絵本にしました。こいぬのコロも、ねこのミケも、みんなで「いないいないばあ!」

(1988 年)



●ばいばい

まつのりこ/さく 偕成社

ひよこ、こんにちは。ひよこ、ばいばい。ぞう、こんにちは。ぞう、ばいばい。うさぎ、こんにちは。うさぎ、ばいばい…。

(1983 年)



●くっついた

三浦太郎/作・絵 こぐま社

ページをめくると…くっついた! その繰り返し。楽しい赤ちゃん絵本。最後は赤ちゃんのほっぺを挟んでお父さん、お母さんとくっついた!

(2005 年)

0 歳



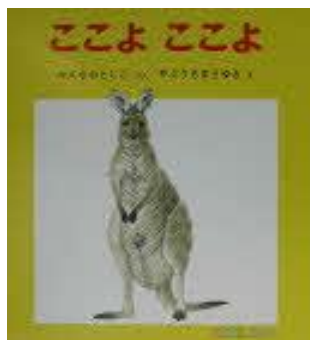
●ぴょーん

まつおかたつひで/作・絵 ポプラ社
かえるが、ぴょーん。いぬが、ぴよよーん。
ばったが、ぴょーん。いろいろな生き物がとび
はねる様子を描いた絵本。
(2000 年)



●でてこいでてこい

はやしあきこ/さく 福音館書店
だれかかくれてるよ、でてこい、でてこい。ど
んな動物がかくれているのかな。赤ちゃんや小
さな子が、色やかたちを楽しめる絵本。
(1998 年)



●ここよここよ

かんざわとしこ/文 福音館書店
「どこにいるの?」の呼びかけに、お母さんの陰
に隠れていた動物の赤ちゃんたちが顔をのぞか
せます。みな幸せそう。
(2003 年)



●おつむてんてん

なかえよしを/作 上野紀子/絵 金の星社
さっちゃんが、おつむてんてん。おくちは、あ
わわ。それをみていた、にゃんこがまねた。お
つむてんてん、おくちは…。
(1980 年)

1歳のあかちゃんに おすすめの絵本



●きんぎょがにげた

五味太郎/作 福音館書店

きんぎょが1ぴき、金魚鉢からにげだした。どこににげた？ページをめくるたびに、にげたきんぎょがどこかにかくれています。子どもたちが大好きな絵探しの絵本。(1982年)



●おにぎり

平山英三/文、平山和子/絵 福音館書店

ごはんをたいて、手の平に水をつけて、塩をつけて、あつあつごはんをぎゅっ、ぎゅっ。さいごに海苔を巻けば、おにぎりのできあがり。はい、どうぞ。(1992年)



●やさいだいすき

柳原良平/作・絵 こぐま社

だいこん、にんじん、たまねぎ、じゃがいも…。切り絵で表現した野菜たちはみんな元気いっぱい！誇らしげな顔で語りかけてきます。

(2004年)

1 歳



●赤ちゃんのためのかたちの絵本

桑原伸之/さく あすなろ書房

まる、さんかく、しかく、ぐにゃぐにゃ？
形をテーマにした楽しい絵本。「赤ちゃんのための絵本シリーズ」(全3巻)完結編。
(2005年)



●おふろでちやぷちやぷ

松谷みよ子/ぶん 岩崎ちひろ/え 童心社
あひるちゃん、どこいくの？ あれ、タオルを
もって、どこいくの？ いいとこいいところ。わ
かった！ おふろだ！ グワッグワッ そうだ
よ はやく おいで～。
(1970年)



●くつつあるけ

林明子/さく 福音館書店

「くつつ あるいた ぱた ぱた ぱた さ
んぽに おでかけ」とあかちゃんがはく、やわ
らかそうで小さな靴がお出かけします。「とん
とん とん」とつまさきで歩いて・・・(1986年)



●かおかおどんなかお

柳原良平/作・絵 こぐま社

楽しい顔、泣いた顔、眠った顔、たくましい顔、
すました顔…。さまざまな顔の表情を切り絵で
表現。赤ちゃんはもちろん、幼児も絵を見なが
ら百面相をして楽しめる絵本。
(1988年)

1 歳

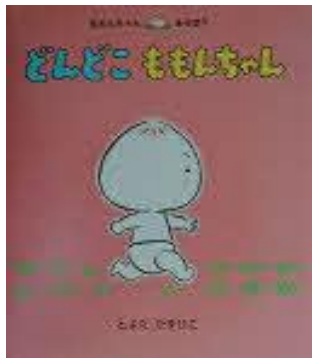


●ぎゅっ

ジェズ・オールバラ/作・絵 徳間書店

お散歩していたジョジョくん、みんなが「ぎゅっ」としているのをみて、ママが恋しくなりました。思わず、ぎゅっとしたくなる絵本。

(2000 年)



●どんどこももんちゃん

とよたかずひこ/さく・え 童心社

どんどこ どんどこ どんどこ どんどこ ももんちゃんがいそいでいます。そんなにいそいでどこにいくの？

(2001 年)



●バナナです

川端誠/作 文化出版局

木になっている青いバナナ、黄色くなったお店のバナナ、皮をむかれたおやつのバナナ、バナナにも、いろいろな状態のときがあります。

(1984 年)



●おつきさまこんばんは

林明子/さく 福音館書店

空のお月様が遠くにいたり、近くにきたり。にっこり笑顔で「こんばんは」。まるで話かけてくるようなお月さまのやさしい表情に子どもたちも思わずにっこり。

(1986 年)

1 歳



●おひさまあはは

前川かずお/作・絵　こぐま社

「おひさまが あはは」。ページをめくれば、お花、子犬、魚など、みんなみんな「あはは」と笑顔にあふれています。声に出して読んでいるうちに、元気が出てくる絵本です。

(1989 年)



●おててがでたよ

林明子/さく　福音館書店

すっぽりかぶった服から「ぱっ おててが でたよ」自分で洋服を脱ぎ着できるようになるのは難しいこと。一つずつ確認しながら、一生懸命服を着て、できるたびに喜ぶ表情豊かな絵本。

(1986 年)



●ねないこだれだ

せなけいこ/さく・え　福音館書店

こんな時間におきているのは、だれだ？ふくろうに、どらねこに、どろぼう・・・そうら、もうおばけの時間なのに・・・いやだいやだの絵本シリーズ。(1969 年)



●たべたのだあれ

五味太郎/さく　文化出版局

「めだまやき たべたの だあれ」あてっこが楽しい絵本。新趣向にあふれる『どうぶつあれあれえほん』

(1977 年)

2歳のあかちゃんに おすすめの絵本



●しろくまちゃんのホットケーキ

わかやまけん/絵 森比左志・わだよしおみ/文 こぐま社
しろくまちゃんがホットケーキを作ります。卵を割って、牛乳を入れて…。見開きいっぱいに描かれたホットケーキの焼ける場面は、子どもたちに大人気。 (1972年)



●たまごのあかちゃん

かんざわとしこ/ぶん やぎゅうけんいちろう/え 福音館書店
「たまごのなかでかくれんぼしているあかちゃんはある？でておいでよ」と呼びかけると、卵の中から次々と赤ちゃんが出てきます。リズムミカルな文と、ユーモラスな絵が楽しい絵本。 (1993年)



●さつまのおいも

中川ひろたか/文 村上康成/絵 童心社
人間に食べられてばかりのおいもにだって、少しは考えもある。土の中で体をきたえ、さあ逆襲だ。 (1995年)

2 歳



●み～んなあくび! どんなあくび?

アニータ・ビスタボシエ/文・絵 パイインターナショナル
こねこ、へび、あらいぐま、うさぎ…。みんな、
どんなあくびをするのかな? 「あくび」や「ねん
ね」をテーマにした寝かしつけ絵本。

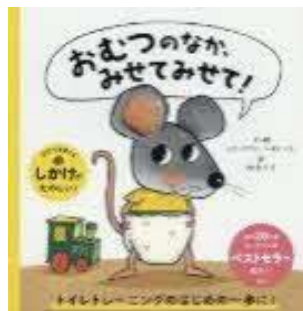
(2019 年)



●うずらちゃんのかくれんぼ

きもとももこ/さく 福音館書店
うずらちゃんとひよこちゃんがかくれんぼをは
じめました。お花のかげに隠れたり、へちまのか
げに隠れたり、きのこのかげに隠れたりしてい
るうちに、雨が降ってきました…。

(1994 年)



●おむつのなか、みせてみせて!

ヒド・ファン・ヘネヒテン/ぶん・え
パイインターナショナル
おむつをめくるしかけを楽しみながら、動物の
うんちの違いを知ることができる絵本。トイレ
トレーニングのはじめの一步に役立ちます。

(2018 年)



●はらぺこあおむし

エリック・カール/作 偕成社
あたたかい日曜日の朝、ぼん! とちっぽけなあ
おむしがうまれました。あおむしはおなかがぺ
っこぺこ。数や曜日の認識をおりこんだ、食い
しん坊あおむしの穴あき絵本。 (1976 年)

2 歳



●くろねこかあさん

東君平/作 福音館書店

6匹の子どもを育てる黒猫かあさんは大奮闘。その様子を白と黒の色の対比を生かした切り絵の手法で展開した絵本です。リズムカルな言葉がいっそう楽しさをふくらませてくれます。

(1990 年)



●はけたよはけたよ

かんざわとしこ/ぶん にしまきかやこ/え 偕成社

たつくんはひとりでパンツがはけないんだよ。だって、ふらふらするんだもん。裸で外へでてみんなに笑われたたつくんが考えたいいい方法とは？

(1979 年)



●ちびゴリラのちびちび

ルース・ボーンスタイン/作 ほるぷ出版

ジャングルに生まれたゴリラは、仲間の動物たちみんなに好かれています。森の動物たちとちびゴリラの交遊をユーモラスに描いています。

(1978 年)



●タンタンのハンカチ

いわむらかずお/作 偕成社

おまじないでどんどん大きくなる赤いハンカチ。ネクタイから大きなマントまで？タンタンは次々と楽しい遊びを考え出します。

(1981 年)

2 歳



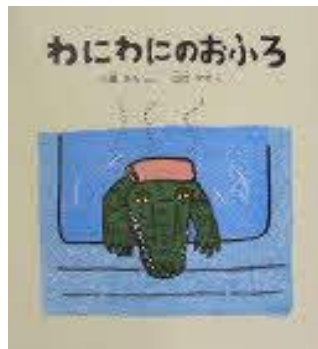
●くまさんくまさんなにみてるの

エリック・カール/絵 ビル・マーチン/文 偕成社
鮮やかな動物たちと子どもの間に会話がはずみます。問答遊びを発展させながら、身近な動物と色彩の感受性を豊かに育む絵本。（1984年）



●きょうはみんなでクマがりだ

マイケル・ローゼン/再話 ヘレン・オクセンバリー/絵 評論社
この絵本は、子どもたちのあそび歌が、もとになっています。文を読みながら、同じような動作――草をかきわけたり、川をわたったり、---をしてあそべます。ご家族のみなさんで楽しんでください。（1991年）



●わにわにのおふろ

小風さち/文 山口マオ/絵 福音館書店
きゅるりきゅるりきゅるり、わにわには蛇口をひねります。じゃばじゃばじゃば、お湯がたまります。そしてお風呂によじのぼります。お風呂が大好きなわにわにの絵本。（2004年）



●おやすみなさいおつきさま

マーガレット・ワイズ・ブラウン/さく クレメント・ハード/え 評論社
おおきなみどりのへやのなか。こうさがベッドにはいり、ねむりにつくところ。こうさは、ふうせんやてぶくろなど、へやのなかのすべてのものに「おやすみなさい」と語りかける。（1979年）

音が楽しい絵本・ わらべ歌



●もこもこもこ

谷川俊太郎/作 元永定正/絵 文研出版

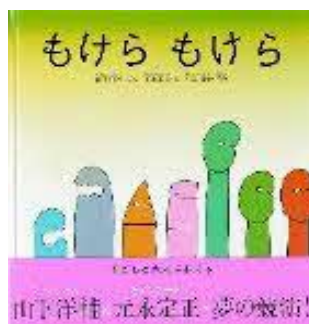
「しーん、もこもこ、によきによき」とふくれあがったものは、みるまに大きくなってパチンとはじけた。詩人と異色の画家がおりなす不思議でおかしな絵本の世界。 (1977年)



●ごぶごぶごぼごぼ

駒形克己/さく 福音館書店

ぷくぷくぷくん ごぶごぶ ごぼごぼ じゃわじゃわじゃわ… いろんな水の音。いったい何があるんだろう。どんなことがおこっているんだろう。 (1990年)



●もけらもけら

山下洋輔/文 元永定正/絵 福音館書店

天才ジャズ・ピアニストとモダンアートの鬼才のコンビによる美しく面白いもう一つの宇宙。言葉はリズムとなって、つぎつぎに展開する絵の世界を行進し、私たちの心を解き放ちます。 (1990年)

音・わらべ歌



●じゃあじゃあびりびり

まついのりこ/作・絵 偕成社

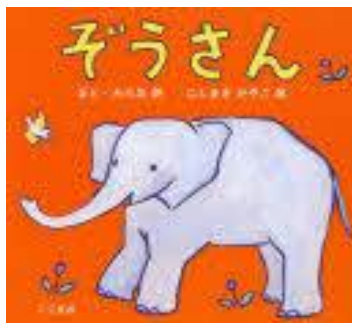
じどうしゃ、ぶーぶーぶー。いぬ、わんわんわん。
そうじき、ぶいーんぶいーん。にわとり、こけこっ
こー…。 (1983 年)



●ころころころ

元永定正/さく・え 福音館書店

色々な色をした小さな玉が転がり出しました。こ
ろころ、ころころ。動きを感じ、鮮やかな色の世
界を楽しむことができる赤ちゃん絵本です。
(1984 年)



●ぞうさん

まどみちお/詩 にしまきかやこ/絵 こぐま社
だれもが一度は歌ったことのある、まどみちお
の童謡「ぞうさん」を、にしまきかやこの明る
く力強い絵で描きます。「象に生まれてよかった
」という子象の嬉しさが伝わる楽しい絵本。
(2016 年)



●うたえほん

つちだよしはる/え グランママ社

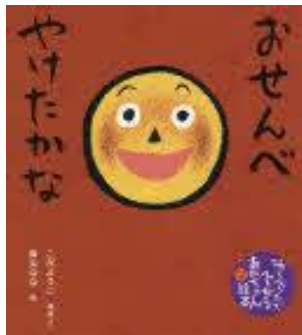
こもりうた、いぬのおまわりさんなど、
あかちゃんに、くり返し歌ってあげたいわらべ
うた、童謡 26 曲。あたたかい絵とすべての歌に
楽譜がついています。 (1988 年)

音・わらべ歌



●ととけっこうよが あけた

こばやしえみこ/案 ましませつこ/絵 こぐま社
げんきなにわとりさんが、みんなを起こしてまわります。わらべうたをもとにしたシンプルなストーリーを、絵で楽しく展開。赤ちゃんと一緒に楽しめるわらべうたの絵本。(2005年)



●おせんべやけたかな

こがようこ/構成・文 降矢なな/絵 童心社
7枚のおせんべをならべて焼いていると、1枚ずつ焼き上がっていき…。あかちゃんといっしょに読んで、あそぼう。読むだけで自然とリズムが生まれる、楽しいわらべうたの絵本。
(2018年)



●えんや りんごのき

松谷みよ子/文 遠藤てるよ/絵 偕成社
りんごの木の苗が大きな木となり、花をつけ実がなった。赤くなったりんごはだれにやる？自然の中で生きる幼児の喜びをうたう。
(1978年)



●さよならさんかく

わかやまけん/さく 森比左志・わだよしおみ/文 岩波書店
「さよならさんかく また来てしかく…」こんななつかしい言葉遊びを、“色”と“形”をテーマに、視覚的に展開させたユニークな絵本です。
(1977年)

音・わらべ歌



●あっぷっぷ

中川ひろたか/文 村上康成/絵 ひかりのくに
にらめっこしましょ あっぷっぷ!! ママも赤ちゃんも思わずぷははは。シンプルで洗練された構成と絵で個々に楽しめる赤ちゃん絵本。
(2003 年)



●あのやまこえてどこいくの

ひろかわさえこ/作者 アリス館
「ありさん ありさん どこいくの? あの山こえて 米粒買いに 米粒買ってどうするの? ぐうぐうねんねの枕にするの」 3歳の娘を園に送り迎えする時、一緒に歌いながら生まれたというリズムカルな絵本。 (1993 年)



●あっちゃんあがつく

みねよう/原案 さいとうしのぶ/作 リーブル
あっちゃん あがつく あいすくりーむ いっちゃん いがつく いちごじゃむ…。うたって嬉しくなるようなはやし歌においしそうな絵をつけた、楽しい絵本。 (2001 年)



●あめふりくまのこ

鶴見正夫/詩 高見八重子/絵 ひさかたチャイルド
おやまにあめがふりました。あとからあとからふってきて、ちょろちょろおがわができました…。長年うたい継がれてきた童謡「あめふりくまのこ」の絵本。 (2009 年)

3～5歳 おすすめの絵本



●わたしのワンピース

にしまきかやこ/えとぶん こぐま社
うさぎさんがワンピースをつくりました。それ
を着てお花畑をさんぽすると、ワンピースが花
模様に…。次々とワンピースの柄が変わります。
(1969年)



●からすのパンやさん

かこさとし/作・絵 偕成社
いずみかもりのからすのまちのパンやさんは、
子どもたちの意見を参考にして、すてきな形の
パンをどっさり焼きました。
(1973年)



●ぞうくんのさんぽ

なかのひろたか/さく・え 福音館書店
散歩するぞうくん。途中かばくんとわにくんと
かめくんと次々背中にのせてあげます。
(1977年)

3歳～5歳

●おおきなかぶ



トルストイ/再話 福音館書店

おじいさんが植えたかぶが、大きなかぶになりました。おじいさんは、「うんこしょどっこいしょ」とかけ声をかけてかぶを抜こうとしますが、かぶは抜けません。おじいさんはおばあさんを呼んできて…。 (1966年)

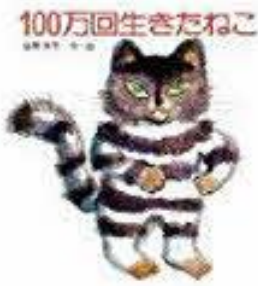
●わすれられないおくりもの



スーザン・バーレイ/さく・え 評論社

森のみんなが悲しまないように手紙を残し旅だったアナグマ！雪が積もる冬が過ぎ、春になってつらく悲しい別れを乗り越えるために、森のみんながアナグマとの思い出を語り合います。アナグマが残してくれたものは…。 (1986年)

●100万回生きたねこ



佐野洋子/作・絵 講談社

100万回生まれかわっては、飼い主のもとで死んでゆく猫。飼い主たちは猫の死をひどく悲しんだが、猫自身は死ぬのなんか平気だった。ある時、猫は誰の猫でもない野良猫となり、一匹の白猫に恋をする…。 (1977年)

●うちゅうひこうしになりたいな



バイロン・バートン/作 佑学社

宇宙飛行士になりたい！スペースシャトルに乗って、宇宙めざして飛んでいくんだ。夢がつまった宇宙飛行士の一日を描いた、シンプルで明るい色彩の絵本。 (1993年)

3歳～5歳

●わごむはどのくらいのびるのかしら？



マイク・サーラー/文 ジェリー・ジョイナー/絵
ほるぷ出版

ある日、ぼうやは輪ゴムがどれくらい伸びるか試してみることにしました。部屋から外へ、バスで、車で、飛行機で、輪ゴムはどんどん、どんどん、どんどん伸びて…。 (1976年)

●ほね



堀内誠一/さく 福音館書店

魚を食べると骨が残る。でもタコには骨がない。もし、あなたのからだに骨がなかったら、あれれ、立つこともできない。骨の働きを力強い絵と文で描きます。 (1981年)

●かずあそび ウラパン・オコサ



谷川晃一/作 童心社

1はウラパン、2はオコサ、3がウラパン・オコサと数える、かずが二つしかない世界では、サルの顔には鼻がウラパン、口もウラパン、目と耳はオコサ、長ーいしっぽはウラパンです。呪文のようなかずのおはなし。 (1999年)

●せいめいのれきし



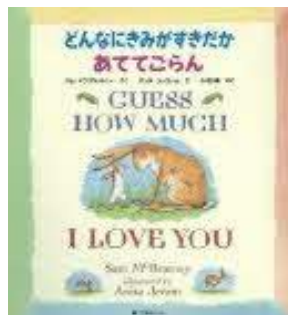
バージニア・リー・バートン/文・絵 岩波書店
地球のうえでの生命の歴史。それは、序幕はあっても終幕のない、おおきなおおきな劇。銀河系の誕生から現在のひとびとの生活までを、バートンが美しい絵とリズムのある文で紹介します。 (1964年)

3歳～5歳



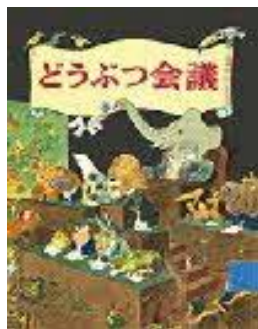
●とりかえっこ

さとうわきこ/作 二俣英五郎/絵 ポプラ社
遊びにでかけたひよこは、出会った動物たちと次々になき声のとりかえっこをします。帰ってきたひよこの声に、お母さんはびっくり！
(1978年)



●どんなにきみが好きだかあててごらん

S・アクブラットニイ/ぶん A・ジェラーム/え 評論社
チビウサギとデカウサギは大の仲良し。「ぼくはきみのことこーんなに好きだよ」二匹は腕を広げたり、背伸びしたり、飛び上がったたり、どんなに相手を好きか言い合うのです。絵もお話の進行も終わり方もほのぼのした本。 (1995年)



●どうぶつ会議

エーリヒ・ケストナー/文 岩波書店
戦争や食糧危機などで、真っ先に犠牲になるのが子どもたち。不幸な子どもたちを出さないために、世界中の動物たちが国際会議を開催し…。地球からあらゆる紛争をなくそうという願いをこめた絵本。(1979年)



●あくたれラルフ

ジャック・ガントス/さく ニコール・ルーベル/え 童話館出版
ラルフは、セイラのねこです。ラルフはとてもあくたれ。お父さんもお母さんも、ラルフのあくたれには、ほとんど困っています。それでも、セイラは、ラルフが大好き。ある日、家族でサーカスを見にいきました。 (1994年)

1～2年生に おすすめの絵本



●おさるはおさる

いとうひろし/作・絵 講談社

ぼくは、南の島のおさるです。みんなとのんびり暮らしています。ところがある日、カニがぼくの耳をはさんでしまって…。ユーモラスなおさるの話。

(1991 年)



●大きい1年生と小さな2年生

古田足日/著者 偕成社

からだは大きいのに泣き虫の1年生のまさやと、からだは小さくてもしっかりしている2年生のあきよ。ふたりの友情と自立の物語。

(1970 年)



●たんたのたんけん

中川李枝子/さく 山脇百合子/え 学習研究社

八月二十九日はたんのたんたの誕生日です。と、どこからかふしぎな地図がまいこみました。矢印や△じるしの書いてある、たんけん地図のようです。さっそく、たんたはたんけんに出発です。

(1971 年)

1～2年生

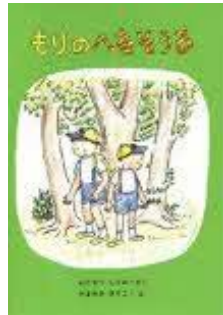


●びゅんびゅんごまがまわったら

宮川ひろ/作 童心社

こうすけたちと、あまのじゃくな校長先生との
びゅんびゅんごま合戦の結果……。

(1982年)



●もりのへなそうる

渡辺茂男/著者 福音館書店

てつたくん、みつやくんの兄弟は、食いしん坊で
臆病、でもとてもやさしいへんな怪獣「へなそう
る」と森の中で出会って、時のたつのも忘れて遊
びます。楽しいさし絵がいっぱいです。

(1971年)



●エルマーのぼうけん

ルース・スタイルス・ガネット/著者 福音館書店
年取ったのらねこからどうぶつ島に囚われている
りゅうの子どもの話を聞いたエルマーは、助けよ
うと冒険の旅に出発します。エルマーはりゅうの
子どもを助け出すことができるのでしょうか？

(1963年)



●はじめてのキャンプ

林明子/著者 福音館書店

なほちゃん、大きい子たちにまざって、ひと
りでキャンプに行きたいといいました。みんな
は口ぐちに「小さい子にはできないよ！」とい
います。 (1984年)

1～2年生



●くまの子ウーフ

神沢利子/作 ポプラ社

遊ぶこと、食べること、そして、考えることが大すきなくまの子ウーフ。ほら、きょうもウーフの「どうして?」が聞こえてきます。子どもたちに愛され、読み継がれてきた幼年童話の傑作。(1969年)



●ぼくはめいたんてい!

マージョリー・W・シャーマット/作者 大日本図書
世界じゅうで翻訳され、こどもたちに愛されつづけているシリーズ。第1弾は『きえた犬のえ』。めいたんていのネートはなかよしのアニーにたのまれて絵をさがすことに…。 (1982年)



●ごきげんなすてご

いとうひろし/作 徳間書店

あたしはりっぱな捨て子です。あたしを拾うとオトクです。子どものいないお金持ち、あたしをもらって下さいな! 弟ばかりかわいがるお母さんに反抗して家出した女の子。元気いっぱいの、愉快なお話。(1995年)



●ももいろのきりん

中川李枝子/著者 福音館書店

るるこは、お母さんから部屋いっぱいになるくらい大きな桃色の紙をもらいました。るるこは大喜び。さっそく、のりとハサミとクレヨンで大きなキリンを作りはじめました。(1965年)

1～2年生



●落語絵本 じゅげむ

川端 誠/著 クレヨンハウス

落語の中でもよく知られているお話を絵本に。めでたい、長生きするという言葉をみんなくっつけて、子どもに長ったらしい名前をつけた親。急場になって我が子の長い名前を繰り返す、そのバカバカしさが笑える。(1998年)



●おいしいのぼうけん

古田足日・田畑精一/作 童心社

さくらほいくえんにはこわいものが二つあります。ひとつはおいしいで、もうひとつはねずみばあさんです。ある日、いたずらをやめなかったさとしとあきは…。(1974年)



●いつもちこくのおとこのこ

—ジョン・パトリック・ノーマン・マクヘネシー

ジョン・バーニングラム/さく あかね書房

ジョン・パトリック・ノーマン・マクヘネシー、おべんきょうしにてくてくでかける。遅刻してしまう少年と、そんな彼を厳しく罰する先生ですが…。(1988年)

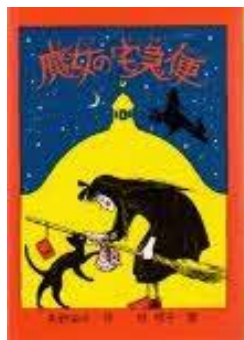


●すてきな三にんぐみ

トミー・アンゲラー/作 偕成社

宝集めに夢中だった、黒マントに黒帽子の3人組の大盗賊。ひよんなことから孤児たちを集め、すてきなお城をプレゼントしました。(1969年)

3～4年生に おすすめの絵本



●魔女の宅急便

角野栄子/著者 福音館書店

黒猫のジジを相棒にほうきで空に飛び立った13歳の魔女・キキは、海辺の町で宅急便屋さんを開くことに…。落ち込んだり励まされたりしながら、健やかに成長していくキキの姿を描く。(1985年)



●こまったさんのサンドイッチ

寺村輝夫/作 あかね書房

こまったさんは花屋さん。サンドイッチをもってヤマさんとムノくんと一緒に山に行くことに。前の晩に、たまごにハムやチーズを用意して眠ったらねぼうをしました。あわてて、家をとびだすとまぶしい野原に…。さてどんなサンドイッチができたかな？シリーズ有(1987年)



●ルドルフとイッパイアッテナ

斉藤洋/著者 講談社

この物語の作者は、黒猫のルドルフだ。飼いねこだったけど、ある日、魚屋に追われて逃げこんだ長距離トラックに乗って、遠い東京まで来てしまった。ルドルフが出会ったのは、とてつもなく大きなトラねこ。(1987年)

3～4年生



●大どろぼう ホッツェンプロッツ

オトフリート＝プロイスラー/作 偕成社
おばあさんの大切なコーヒーひきを奪った大どろぼうを追って、2人の少年が大活躍！ スリルとユーモアがいっぱいの傑作。 （1966年）



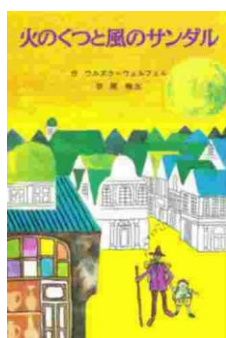
●はれときどきぶた

矢玉四郎/作 岩崎書店
明日は「はれ、ときどきぶたがふるでしょう」。則安君が書いたでたらめの日記。ところが本当にぶたが！ 大人気ベストセラー童話。 （1980年）



●長くつ下のピッピ

アストリッド・リンドグレン/作者 岩波書店
町のはずれのボロ家に、小さな女の子がひとり住んでいます。名前はピッピ・ナグクツシタ。ピッピは世界一力持ちのスーパーガールなんです。 （1964年）



●火のくつと風のサンダル

ウルズラ＝ウェルフェル/作 童話館出版
くつ屋のチムは、デブでチビでびんぼう。ほかの男の子になりたいと思ってしまうチム。でもたんじょう日に、お父さんはチムに「火のくつ」という新しい名前と、すてきな冒険旅行をプレゼントしてくれました。 （1997年）

3～4年生



●がんばれヘンリーくん

ベバリイ・クリアリー/作者 学習研究社

ヘンリーくんは小学3年生。ごくふつうの男の子。ある日、やせこけた犬を拾い、こっそりバスに乗せて家までつれて帰ろうとしましたが、途中で犬があばれだして大騒ぎに…。

(1968年)



●セロひきのゴッシュ

宮沢賢治/作 福音館書店

ゴッシュは動物たちの助けをかりてセロの練習をします。「賢治を描いては最高」といわれる画家の絵をそえて1冊に仕上げられた、文学のすばらしい贈り物です。 (1966年)



●ふたりはともだち

アーノルド・ローベル/作 文化出版局

仲よしのがまくんとかえるくんを主人公にしたユーモラスな友情物語を5編収録。読みきかせにもふさわしいローベルの傑作です。小学校の教科書に採用されています。

(1972年)



●霧のむこうのふしぎな町

柏葉幸子/著者 講談社

水玉模様の傘を追いかけているうちに、リナは、ふしぎな町へやってきた。森の深い緑の中に、赤やクリーム色の家が6軒。ている。ここが、リナの探していた、霧の谷のめちゃくちゃ通りだった…。 (2006年)

3～4年生



●だれも知らない小さな国

佐藤さとる/著 講談社

1959年に自費出版後、同年講談社から出版されたファンタジー小説。同年毎日出版文化賞、1960年度児童文学者協会児童文学新人賞、国際アンデルセン国内賞を受賞している。（1985年）



●ふしぎな木の実の料理法

岡田淳/作 理論社

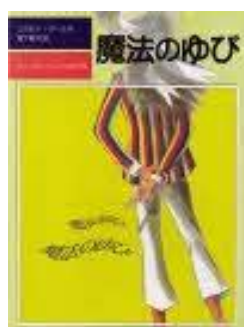
こそあどの森に雪が積もっています。学者のバーバさんは南の島からスキッパーに小包を送りました。ポアポアの実。でも料理法がわかりません。お料理上手のトマトさんを訪ねました。（1994年）



●煮干しの解剖教室

小林真理子/文 仮説社

料理のだしに使う、そのまま食べてもおいしい「煮干し」を解剖してみましょう。特別な道具がなくてもできる「煮干しの解剖」を通して、小さな魚の体のしくみが学べます。（2010年）



●魔法のゆび

ロアルド・ダール/作 評論社

何かにカッとなると、右手の人さし指から突然光線のようなものが飛びだす、「魔法のゆび」をもつ少女。それは使っちゃいけないと決めている。でも隣の一家が銃で動物を撃つのを見て、思わずカッとなり…。（1986年）

5～6年生に おすすめの絵本



●モモ

ミヒャエル・エンデ/作 岩波書店

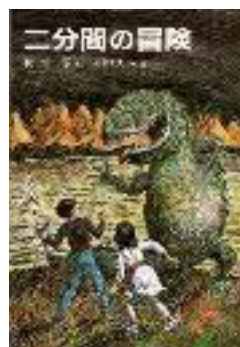
町はずれの円形劇場あとにまよいこんだ不思議な少女モモ。町の人たちはモモに話をきいてもらうと、幸福な気持ちになるのです。そこへ「時間どろぼう」の男たちの魔の手が忍び寄り…。(1976年)



●チョコレート工場の秘密

ロアルド・ダール/作 評論社

チャーリーが住んでいる町に、世界一広大で世界一有名なワんカのチョコレート工場がある。そこへ、5人の子供たちが招待されることになって…。(1972年)



●二分間の冒険

岡田淳/著者 偕成社

たった二分間で冒険？信じられないかもしれませんが。でもこれは、六年生の悟に本当に起こったこと。体育館を抜け出して、ふしぎな黒猫に出会った時から、悟の長い長い二分間の大冒険が始まります。(1985年)

5～6年生



●星の王子さま

サン＝テグジュペリ/作 岩波書店

「たいせつなことはね、目には見えないんだよ…。」 80以上の国語に翻訳され、世界中で読みつがれてきたサン＝テグジュペリの童話。

(1962年)



●ココの詩

高樓方子/著者 リブリオ出版

金色の鍵を手に入れ、初めてフィレンツェの街にでた人形のココ。無垢なココを待ち受けていたのは、名画の贋作事件をめぐるネコー味との攻防、そして焦がれるような恋だった…。

(1987年)



●エーミールと探偵たち

エーリヒ・ケストナー/作 岩波書店

おばあちゃんをたずねる列車の中で、大切なお金を盗られてしまったエーミール。ベルリンの街を舞台に、少年たちが知恵をしばって協力し、犯人をつかまえる大騒動がくりひろげられる。 (1962年)



●精霊の守り人

上橋菜穂子/作者 偕成社

バルサが助けた少年は第二王子のチャグムだった。チャグムは100年に一度生まれる精霊を宿しているために、あらゆる者からねらわれていた。精霊が無事に生まれるとその100年は大きな災害や飢饉が起きないという。 (1996年)

5～6年生



●ナルニア国物語 ライオンと魔女

C・Sルイス/作 岩波書店

とびらをぬけて、壮大な空想の世界へ…。想像上の国「ナルニア」の誕生から滅亡までを描き、世界中で愛されてきた長編ファンタジー。新たに画家ベインズ自身の彩色によるカラーイラストを添えて刊行。06年映画公開。（2005年）



●やかまし村の子どもたち

アストリッド・リンドグレン/作 岩波書店
学校へ行ったり、お手伝いをしたり、遊んだり…。豊かな自然の中で、毎日楽しく幸せに暮らす、やかまし村の子どもたちの姿を生き生きと描く。原書初版のニイマンのさし絵と新訳でおとどけします。シリーズ第一作。（2019年）



●冒険者たち—ガンバと十五ひきの仲間

斎藤惇夫/作者 岩波書店

イタチと戦う島ネズミを助けに、ドブネズミのガンバと仲間たちは夢見が島へ渡りました。獰猛な白イタチのノロイの攻撃を受け、ガンバたちは知恵と力の限りをつくして戦います。（1982年）



●床下の小人たち

メアリー・ノートン/作 岩波書店

イギリスの古風な家の床下に住む小人の一家。暮らしに必要なものはすべてこっそり人間から借りていましたが、ある日、その家の男の子に姿を見られてしまいます。「小人シリーズ」第1作。（1969年）

5～6年生



●西の魔女が死んだ

梨木香歩/著 小学館

中学校に入ったばかりのまいは、学校へ行けなくなった。そして田舎のおばあちゃんのところへ行くことになった。畑や林、川や緑の山に囲まれて過す日々。西の魔女とはだれだろうか？

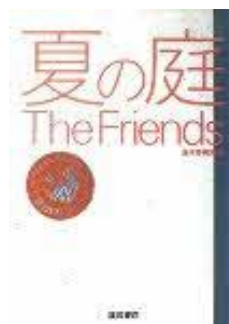
(1996年)



●カラフル

森絵都/著 理論社

いいかげんな天使が、一度死んだはずのぼくに言った。「おめでとうございます、抽選にあたりました！」ありがたくも、他人の体にホームステイすることになるという。ぐっとくる、ハートウォーミング・コメディ。(1998年)



●夏の庭

湯本香樹実/著 福武書店

おじいさんが僕たちに教えてくれたのは、心の中にしまっていた花の名前や花火の色、そして様々な記憶…。3人の少年と老人のかけがえない夏を描く。(1992年)



●ぜっばうの濁点

原田宗典/作 柚木沙弥郎/絵 教育画劇

昔むかしあるところに言葉の世界がありまして、その真ん中におだやかなひらがなの国がありました。ところがある日の午下がりに、道ばたに濁点のみが置きざりにされていて…。

(2006年)

各作品の著者・出版社等の情報は奥付を基にしています。現在流通している作品とは異なる場合があります。

令和 2（2020）年 7 月 発行
©筑後市立図書館